

平成 29 年度 飯山市健康づくり推進協議会 会議録

平成 30 年 2 月 7 日 15:00～

飯山市役所 第 3 委員会室

1 開 会

常田保健福祉課長

出席者（敬称略）

委員関係： 高橋智子、横田純、三橋寛一、上野佳代子、長谷川誠、三ツ井修、池田澄子、山室茂孝、佐藤由姫、梨和俊樹、石澤一芳、鈴木聡子（12名）

飯山市： 民生部長清水俊文、保健福祉課長常田徳子、国保年金係長中寫静子、高齢者介護保険係長月岡伸太郎、健康増進係長田中由美子、健康増進係主査（保健師）飯塚憲子（6名）

2 委嘱書交付

足立市長から（敬称略）

高橋 智子、 横田 純、 三橋 寛一、 上野 佳代子、 長谷川 誠、
平野 弘蔵（代理 三ツ井 修）、 池田 澄子、 山室 茂孝、 佐藤 由姫、
竹内 亨（代理 梨和 俊樹）、 石澤 一芳、 鈴木 聡子

3 あいさつ(足立市長)

どのようにして市民の健康増進を図るかが課題。ビックデータが蓄積されており市で把握している。具体的に改善することが大切。国でも進めているデータヘルス計画についてご意見を頂きたい。飯山市は、健康寿命、健康余命ともに県平均よりも低くなっている。50歳代の男性の約25%がメタボリックシンドロームに該当し、約20%が予備群となっている。市民の約75%が運動習慣が無いと回答している。生活習慣の改善意欲無しと回答した者は約35%。今までも取り組んでいるが、受診率を高めるとともに快適に運動ができる環境が大切になる。運動のできる場の提供、体を動かす、適切な運動アドバイザーなど、環境を整えることが次の段階として必要ではないかと考えている。健康づくり推進協議会組織の中で健康づくりについて検討して欲しい。

4 会長及び副会長の選出

会長 高橋 智子 様 副会長 横田 純 様

あいさつ（高橋会長）健康とは何か。予防が大切となる。

（横田副会長）フレイル（虚弱ということ）信号が青になっても渡りきれない。自分で思っているよりも老化は進んでいる。予防の面でどうすべきか。スキルアップとなるように。

5 協議事項

- (1) データヘルス計画（保健事業実施計画）及び特定健診・特定保健指導実施計画（案）について 田中健康増進係長説明

(高橋会長)

高齢化率が高いと医療費も高くなると思うが。

(清水民生部長)

平成 30 年度から国保税が平準化されるので、この点はあまり問題が無くなる。

(石澤委員)

飯山市は高齢化率が高い。疾患も多くなる。医療費の問題も関係してくるのでは。

(清水民生部長)

飯山市の医療費は県内でも高い。ご指摘のとおり。国民健康保険を運営するために、統一的な方針が定められた。国が財政支援の拡充を実施するとともに、県と市町村が共同で国民健康保険を運営していくこととなった。平成 30 年度から県で統一的な取組みを行うようになる。健康に関するデータヘルス計画を基に、健康に導いてもらいたい。

(石澤委員)

信濃毎日新聞に医療費抑制についての記事が載っていた。自治体ごとに点数化されたもの。都道府県の医療費抑制や健康づくりの取り組み成果を初めて点数化した結果、最大で約 2.3 倍の差があるというもの。210 点満点で成果が一番高く評価されたのは新潟県 (183 点) で、最下位は山口県 (80 点) だった。長野県は 122 点 (33 位)、長野県平均は 123 点。点数に応じて財政支援があるというもの。飯山市は何点で報告したのか。

(中畷国保年金係長)

財政支援にどう反映されているかは不明。点数については県から報告が返ってきていないので回答できない。平成 30 年度から本格実施となる。配分額は公表されていない。

(佐藤委員)

介護、介助が必要になった理由について骨折、転倒が多い。ロコモティブシンドロームに関する講演会は実施してもらっているが、40 歳代以上の女性に骨密度の測定を取り入れて欲しい。機械であっても血液であってもよい、どこかで取り入れて欲しい。

(田中健康増進係長)

検討していきたい。

(横田副会長)

3年前と比べて削除したものや、新たに取り入れたものはあるか。増やせるものあったら取り入れて欲しい。

(田中健康増進係長)

成人保健分野に関しては3年前に比べて特に変わったものは無い。

(2) 飯山市健康増進計画中間評価について **田中健康増進係長説明**

(石澤委員)

運動習慣の割合の増加について。データヘルス計画では1回30分、健康増進計画では1日1時間以上運動を実施する者の割合となっている。統一したほうが見やすいのではないかと。

(池田委員)

但し書きが入れば良い。この統計はこの調査によって作成したなどの一文が入っていれば良い。20歳以上男性、女性だけでは市民全体と捉えてしまう。

(清水民生部長)

但し書きがないと分かりづらい。

(山室委員)

データ数を示してあれば良い。算出根拠が入れば混乱しない。

(清水民生部長)

工夫させて欲しい。

(田中健康増進係長)

県民栄養調査のようなものも参考としてとられることがある。1地区選ばれて調査する。

(池田委員)

抽出するしか、全体は捉えられない。

(横田副会長)

歯科分野について。歯周疾患健診受診者数は統計はないと思う。ヤング健診で歯科健診を行っていたが、

やめて10数年になる。統計の取り方とすれば歯周病治療を行ったかどうかレセプト（診療報酬明細書）を見るしかない。

25歳以上を対象に歯周病治療をしたか。レセプトでは「P」という表記となる。レセプトで歯周病の治療をたしたかということ、25歳以上から歯周病が始まる。16歳以上で「G」という表記は歯肉炎のこと。歯周病の前段階。調べればデータが出る。ものさしになるのでは。

歯の部分について、どんな健診で、どんなアンケートを取ったのか算出方法を教えて欲しい。

(池田委員)

「P」と「G」について教えて欲しい。

(横田委員)

「P」はペリオと言い歯周病のこと。「G」はジンジバルと言い歯肉炎のこと。ぐらぐらしていても歯を入れなくていいという患者さんについては追跡できなくなるが。

自分のところへ来る患者さんの中には3～4ヶ月に1回、あるいは6ヶ月に1回というように歯周病のチェックをしてくださいと来る人もいる。

(上野委員)

乳房と子宮がんクーポンについて。乳房はやっている方が多いが、子宮は減ってきている気がする。国のクーポンは1回でも受けた方は対象から外れてしまうからか。

(田中健康増進課係長)

子宮がんの国のクーポンは21歳。乳がんは国が41歳。市の独自クーポンは46歳から60歳までの偶数年齢の方が対象となっている。クーポンを発行していても未受診者が多い。1月末に、今年度のクーポン対象者で受けていない人に通知をした。子宮がん検診をクーポンで受ける人は少ない。受けるのは50、60歳代が多い。

(上野委員)

骨密度についてだが、日赤では放射線科で予約無しで測定できる。骨盤から大腿骨まで。時間は10分位で寝ていて測定できる。放射線技師からすぐに説明してもらえる。

(池田委員)

料金はいくらかかるのか。

(上野委員)

3,100 円。

(佐藤委員)

勤務している人は、健診で休むことができるが、測定のためだけに休むことはできない。健診などと一緒に測定できれば良い。

(3) その他

(田中健康増進係長)

2月下旬から3月中旬にパブリックコメントを行う。修正したものを委員に送れるのは3月下旬になる見込み。

データヘルス計画作成にあたり、県庁と佐久保健福祉事務所長兼務の小林良清先生のご指導を受け、データ集のような形で良いと指導を受け本日に至っている。

6 その他

(横田副会長)

平成16年6月に高齢者歯科について飯山市、栄村共催で講演会を実施した。そろそろ計画したいので行政にもご協力を頂きたい。先日は、介護保険事業所ゆりかごで私が講演させてもらった。入れ歯のこと、介護者の中には入れ歯の入れ方はわかっていても外し方が分からない方もいる。誤嚥性肺炎にもつながる。介護スタッフや、介護者家族に対して行った。長野では日本大学のエキスパートの先生を呼んで市民講座を行っている。引き出しも沢山持っている、スキルアップにもつながる。予算の関係もあると思うのですぐにとは言わない。栄村、中野市にもご協力いただければと思う。ご検討いただきたい。

(高橋会長)

自殺対策の関係で、2年に1回、市民向けの講演会を実施している。2年前は杉浦先生の講演会を実施した。平成30年は9月の土曜日に、講師は精神保健福祉センターの小泉先生に依頼して「なちゅら」の小ホールで講演してもらう予定。日程はまだ決まっていないが、多くの方にご参加をお願いしたいと思う。

(石澤委員)

データヘルス計画の59ページの健康寿命と健康増進計画の概要版の健康寿命の年齢が一致していない。

(常田保健福祉課長)

健康寿命の出し方には3種類程あるので、数字が異なっている。確認する。

(石澤委員)

データヘルス計画にも載っているが、健診の間診項目に20歳時の体重から10kg増加したかとあるが、自分でも20歳の時の体重は覚えていない。成人式の際に渡す冊子の裏表紙にでも「あなたの健康を維持するためにメモしておきましょう」などというページを作成し、メモできればいいと思う。

(横田副会長)

健康増進計画の薄い冊子は全戸配布となっているのか。

(田中健康増進係長)

平成26年春に全戸へ配布済み。

(横田副会長)

健康増進計画概要版の歯・口腔の健康の部分に「かかりつけの歯科医を持ち、定期健診を行きましょう。」とあるが、最低でも年1回、半年に1回など1言入れてあげれば受診する頻度がわかる。今度冊子を作る時は、回数を入れて欲しい。

7 閉 会

常田保健福祉課長

以上を持って健康づくり推進協議会を閉会したいと思います。ありがとうございました。